

リトアニア政治・経済月間情勢(9月)

概況

- 10月の総選挙に向けて、野党の社会民主党、労働党の支持率は与党を依然リードしているが、まだ3~4割の有権者は態度未定。
- 国連総会にグリボウスカйте大統領及びアジュバリス外相が出席し、積極的な外交を展開。大統領は一般討論演説で、エネルギーの独立の重要性を強調。
- アフガニスタン開発会議がビリニウスで開催され、同国と近隣国との地域協力の重要性が強調された。チャグチャランPRTIについては、2013年末までに撤退することを政府は検討中。
- ビリニウスで開催されたバルト3国首相会合で、ビサギナス原発計画に関する政府間作業部会の設置が合意された。また、サプライヤー向け会合等本プロジェクト関連の会合が相次いで開催された。

内政

【5日】弾劾された人が公職に付くことを永久禁止から4年間に限定した改正選挙法は憲法違反との憲法裁判所の判決を受け、11日、中央選挙管理委員会は、パクスス秩序と正義党党首(2004年に大統領時に弾劾を受け、失職)の立候補申請を却下。

【5日】デグティエネ国会議長は、長期的に国防費をGDP比2%まで増大させる政党間合意の遵守を強調。クビリウス首相は予算削減との折り合いを付けるべきと慎重な立場。10日、クビリウス首相は2013年の国防予算をGDP比0.85%へ引き上げる提案をし、野党も賛成。

【10日】国会秋季会期が開始。国会の野党代表はプトケビチュウス社会民主党党首からガプシス労働党議会グループ代表に交代。

【11日】中央選挙管理委員会は、総選挙に比例代表約1,800人、小選挙区約200人、17の政党及び1政党連合が登録されたと発表。

【12日】ルーカス・エコノミスト誌国際部長はインタビューの中で、現政権の経済及びエネルギー政策は評価する、主要な野党党首のロシアからの脅威はないとの発言は驚くとコメント。

【22日】9月の支持率調査が発表。野党、社会民主党23.4%、労働党21.1%、秩序と正義党13.9%。与党、祖国同盟12.3%、リベラル・ムーブメント5.3%。新党、「勇気ある道」6.5%。有権者の約4割は投票態度未定。

【25日】地域、有権者層別の支持政党調査が発表。カウナスは保守から中道左派に傾化(社会民主党及び労働党(各22.6%)、祖国同盟(18%))。ビリニウスでは依然として祖国同盟(26.5%)が強い。地方全体では労働党(22.8%)、秩序と正義党(22.7%)支持が高い。高学歴層は社会民主党(29.1%)及び祖国同盟(24.5%)を、低所得層は労働党(31.7%)を支持。

【28日】統計局は、2011年国勢調査の最終結果を発表し、人口は304万人強と10年前と比較し、40万人以上が減少しており、海外流出移民が深刻との結果となる。主要少数民族の割合に大きな変化なし(ポーランド系6.6%、ロシア系5.8%)。

外交

【4日】ビリニウスで北欧バルト諸国(NB8)外相会合が開催され、東方パートナーシップ、中東情勢、ユーロ圏の課題、NATO及びEU、安全保障分野での協力等について協議。出席外相はグリボウスカйте大統領を表敬。

【6日】リトアニアのアルメニア・コミュニティは、ハンガリーより引渡されたアゼルバイジャン軍人サファロフへの大統領恩赦に抗議するデモを当地ハンガリー大使館及びアゼルバイジャン大使館に対し実施。

【7日】クリントン米国務長官は、ユダヤ・コミュニティへの賠償問題に関しクビリウス首相の果たした役割に謝意を表す書簡を发出。

【7~8日】アジュバリス外相は、EU外相非公式会合出席のためキプロスを訪問。アヴラモプロス・ギリシャ外相とも会談し、観光分野等での両国関係強化について協議。

【10～13日】クビリウス首相はサマー・ダボス会合に出席のため中国を訪問し、同会合でエネルギー・ミックスの重要性を強調。11日、温家宝首相との会談で、ハイテク部門、農業、運輸、教育及び観光分野での協力に関し協議。12日、シュワブ世界経済フォーラム会長と会談し、来年のダボス会議への招待を受けた。

【11日】欧州議会は、リトアニアに対しCIAのテロ容疑者収容に関する調査の再開を要請。

【12日】グリボウスカイト大統領は、ルーマニアを公式訪問し、バセスク大統領及びポンタ首相と会談。EU、エネルギー安全保障、アフガニスタン、ロマ問題等につき協議。

【12日】クビリウス首相及びアジュバリス外相は、リビアでの米国外交官襲撃、大使殺害を強く非難する声明をそれぞれ発出。

【13日】ユクネビチエネ国防大臣及びアジュバリス外相は、当地訪問中のディ・パオラ伊国防大臣と会談。ディ・パオラ大臣はイタリアのNATOバルト領空監視ミッションへの参加を表明。

【17日】アジュバリス外相は、ブルガリア、チェコ、ラトビア、ルーマニア外相と共にグルジアを訪問し、ヴァシャツゼ外相及びバクラツゼ国会議長と会談し、グルジアの欧州及び欧州大西洋への統合並びに自由公正な選挙の実施決意への支持を表明。

【17日】ユクネビチエネ国防大臣は、当地を公式訪問中のアビエフ・アゼルバイジャン国防大臣と会談し、国防面での両国協力、地域安全保障及び多国籍軍活動への参加について協議。

【18日】アジュバリス外相はウクライナを訪問し、グリシチェンコ外相と会談。EU東方パートナーシップの活用及び10月のウクライナ議会選挙の民主主義的実施を要請した。

【18日】領空監視局は、ベラルーシ航空機によるリトアニア領空侵犯を確認。21日、外務省は、当地ベラルーシ大使館に対し、情報提供を要請する口上書を手交。

【19日】ビリニウスでアフガニスタン開発会議が開催され、ラスール・アフガニスタン外相、和田外務省国協局参事官等が出席。アジュバリス外相は、周辺国との協力強化によるアフガニスタンの発展支援を表明。ラスール外相との会談では、両国の政治協力強化の基礎となる外務省間協力に関する覚書へ署名した。

【20日】ユクネビチエネ国防大臣は、2013年1月からゴール県撤退準備活動を開始し、2013年末までにチャグチャランPRTを撤退させるとの決議案を次週に政府へ提出予定と発言。

【20日】当地訪問中のポレンツ独国会外交委員長は、グリボウスカイト大統領、アジュバリス外相及びデグティエネ国会議長と会談し、エネルギー、EUでの協力、二国間関係等について協議。

【21日】外務省は、ベラルーシ下院選挙のOSCE選挙監視要員であるジングリス国会外交委員長への査証発給拒否に関し、当地のベラルーシ臨時代理大使を召致し、懸念を表明。24日、23日の同国選挙結果に関し、クビリウス首相は何ら評価できないと述べ、外務省は民主的選挙で保証されるべき権利が確保されなかったとのOSCE監視団の結論を共有するとの声明を発出。

【24日】クビリウス首相は当地公式訪問中のオルバン・ハンガリー首相と会談し、エネルギー安全保障、EUの課題等に関し協議し、両国の友好関係強化及び中欧諸国の協力促進を表する共同声明に署名。

【27日】ユクネビチエネ国防大臣は、カリニングラードでのトーチカ・ミサイルのテスト発射はロシアの軍事力の誇示であり、事前通告がなく、透明性が欠如、両国の信頼関係構築に資しないと批判。

経 済

【1～9日】ジリウス経済大臣は、中国での国際投資貿易フェアに出席し、中国貿易大臣とも会談し、両国の経済関係強化について協議。

【5日】世界経済フォーラムの発表した今年の国際競争力報告書において、リトアニアは144か国中45位（昨年42位）で、煩雑な行政手続き、税制及び硬直した労働雇用契約等により順位が下がったと専門家は分析。

【10日】財務省は、EUやユーロ圏の景気後退がリトアニアの輸出や国内需要に与える直接的な影響は少なく、今年の中期的経済見通しに大きな変更はないが、欧州経済等の要因により、成長率は昨年より下がり、2.5%と予測。

【17日】リトアニア産業連盟は、ビジネス・フォーラムを開催し、現政権の経済危機への対処等を評価する一方、次期政権に対し、投資誘致強化、国有財産の整理、教育改革、エネルギー価格引下げ等を要請。累進課税には反対。

【24日】マチューリスSwedbank主任エコノミストは、当国経済は外的衝撃に対応出来る体勢が出来ており、経済危機第2波の警告は逆効果となる、来年は4%の成長が可能とコメント。

エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【5日】クビリウス首相及びセクモカス・エネルギー大臣は、欧州委員会がガスプロムの反トラスト行為に対する調査開始を決定したことを歓迎。6日、クビリウス首相は、ガスプロムは直ちに価格政策を変更し、損失補償を検討すべき等と発言。

【13～14日】ビリニウスにてビサギナス原発サプライヤー向け会合が開催され、白石大使は冒頭挨拶を行った。日本から日立製作所及び清水建設が出席し、プロジェクト概要、サプライヤー選定方法、欧州内調達品等につき説明。国内外から約300名が出席。

【14日】ビリニウスにてバルト・エネルギー市場相互連結計画第2回地域会合が開催され、クビリウス首相、セクモカス大臣、エッティンガー欧州委員(エネルギー担当)等が出席し、欧州エネルギー市場統合やこの分野でのバルト3国協力の必要性が強調された。羽生日立製作所常務は、日立は原発建設だけでなく、エネルギー効率化や再生可能エネルギーでも貢献する用意があると発言。

【17日】野党のプトケビチュウス社会民主党党首及びマズローニス秩序と正義党副党首は、原発に関する国民投票で反対を投じるよう呼びかけ。

【19日】国会外交委員会は、ビサギナスで日米、EU及びNATO加盟国大使を招き、エネルギー安全保障に関する原子力の役割に関する会合を開催。セクモカス大臣はビサギナス原発の重要性と日米の支援、イグナリナ廃炉に関するEU支援の重要性、吉田日立製作所国際電力営業本部長は、建設予定の原発の安全性を強調。

【19～20日】ビリニウスでバルト3国首相公式会合が開催され、ビサギナス原発計画に関する政府間作業部会の設置が合意され、本件計画の今後の指針に関する覚書が署名された。

【27日】クビリウス首相は、EUがイグナリナ原発廃炉に関する資金協力を減らせば、廃炉作業の更なる遅延を招くと発言。

日本との関係

【15日】カウナス市にて、当国初となる寿司関連大型行事「すしフェスタ2012」が開催され、開会式にて白石大使が挨拶を行い、高山公邸料理人が寿司デモンストレーション等を実施した。ワークショップでは、参加者は手巻きの作り方を体験した。

【20～21日】ミコラス・ロメリス大学及びカウナス室内劇場それぞれで裏千家教授の桂裕子氏による茶道デモンストレーションを実施し、両日合計で約300人が参加した。

【21日】当地出張中の藤井敏彦資源エネルギー庁エネルギー交渉官は、当地電子報道サイトとのインタビューで、「革新的エネルギー・環境戦略」概要、海外への原発技術輸出に対する立場、福島事故後の国内の原子力事情等について説明。

【21日】当地訪問中の服部日本原子力産業協会理事長は、当国国営テレビとのインタビューで、エネルギー安全保障、原子力の経済的必要性、ビサギナス原発建設等について説明。

【28日】訪日中のメイルーナス外務副大臣は、山根外務副大臣と会談し、両国間の協力関係強化、日EU・EPA、欧州債務危機、両国のエネルギー情勢等につき協議した。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。